

ふくおかAL通信

第25号
(R1.7.12)

～県立学校の教室から～

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

福岡県立八女工業高等学校



自ら課題を見出し、新たな価値を生み出す、創造的なエンジニアの育成

福岡県立八女工業高等学校は大正9年に創立され、次年度創立100年を迎える歴史と伝統のある工業科の専門高校です。「誠実・勤勉・協調」を校訓とし、教育目標「真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、協調性と主体・創造の精神に富む、心身ともに健全な将来の実践的技術者の育成を目指す。」に則った教育を進め、精神的、経済的、社会的に自立した幸せな大人になれるよう、「しなやか」で「したたか」な精神力を持つ生徒の育成に努めています。

1 授業改善の目指す方向性

「学び」のキーコンセプト（4C）

Challenge（挑戦） Creation（創造） Collaboration（協働） Contribution（貢献）

校訓の精神と学校教育目標を継承した上で、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために、上記の4Cを「学び」のキーコンセプトとする実践的・体験的な教育活動を推進しています。

- ①技術の進展、グローバル化、産業構造の変化に対応し、自己を高め新たな付加価値の創造に挑戦する態度
- ②工業に関する課題を発見し、実践的技術者として倫理観を持ち、合理的・創造的に判断する力
- ③よりよい社会の実現を目指して自ら学び、工業の発展に主体的・協働的に取り組む態度
- ④工業技術（ものづくり）を通じて、地域や社会の健全な発展に貢献する志と実践行動力等の育成に向け、授業改善に取り組んでいます。

2 具体的な取組

(1) 授業改善のための校内研究体制

『主体的・対話的で深い学び』を推進するための校内研修会を研修部が中心となり、毎年継続して行っています。本年度の研究のテーマを「観点別評価の推進」として、7月に「観点別評価に関する研修会」を予定しています。この研修会を通して、校内での共通理解を高め、本年度後期に予定している校内授業研修では、全教科で「授業の中で観点別評価」を行うことにしています。研修会を重ねることで、多くの教員が、まなボードを活用し、対話を通して理解を深める等「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながりました。また、職員室には、ALに関する図書のコナーが整備され、授業で利用できるアプリケーションやタブレットなどの機器についても教職員相互の情報交換が盛んに行われています。

(2) 英語科によるパフォーマンステスト

英語科では、1年次より継続的に、1単元に1回程度のパフォーマンステストを行っています。入学当初、他者の前で英語を用いることに緊張していた生徒も多くなりましたが、学年が進むにつれ、「自己の考えに根拠を持ち魅力的に伝えること」を意識して話せるようになっていきます。また、他者と協働して学習する機会を多く持つことで、他者の考えの良さを学び、自己の学習を深めることになっていきます。

(3) 課題研究におけるILU評価表の導入

授業の中で達成すべき学習目標と態度目標を明確化し、評価を可視化するために、「ILU評価表」を導入しています。

この評価表は、企業訪問をした際に、実際に企業で行っていた

Lesson1 Performance Test

Let's debate!!

●THEME

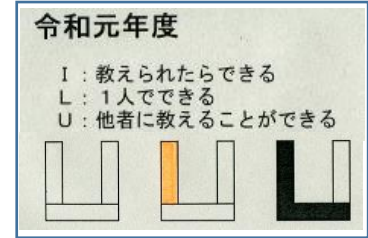
Japan should not allow children of junior high school students or younger to have smartphones.

●評価の観点

- ・自分の意見を理由・根拠をもって話すことができる。
- ・テーマについて様々な角度から考えることができる。
- ・対戦相手が分かりやすい表現を使って話すことができる。
- ・ポイントがずれていない反論をすることができる。
- ・チームで協力して勝とうとしている。

【パフォーマンステストでの評価の観点】

ものを基に作成しました。評価を可視化することで、「目標への達成度を時間ごとに確認できること」、「困った場合に一人で抱えることなく、他者へ聞くことができること」、「グループで協働して作業を行うこと」が期待でき、卒業後就職し、グループで協働作業を多く経験することになる生徒にとって、将来へつながる学びの方法を習得することとなります。



【I L Uによる評価の観点と評価表】

3 具体的な授業実践例

それぞれの授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組を行っています。ここでは二つの実践を紹介します。

(1) 工業化学科 3年「コミュニケーション英語Ⅱ」 ディベート

教科書のlesson1「Take a Shot or Not」についての内容理解をした後、「日本は中学生以下の子供にスマートフォンを許可すべきか否か」というテーマでディベートを行いました。パフォーマンステストとしてディベートを行うため、肯定側、否定側双方に分かれ、予想反論を組み立て、英文を作成します。そのために、まず各グループで「予想される相手の主張」と「反論」を考えます。その際、グループ内での意見を集約し、「相手の主張を覆すための反論を根拠を示しながら練り上げる」ことを意識して取り組みます。その後、「対戦相手にとってわかりやすい表現を用いる」ことに注意し、チーム内で協働し、英文を作成していきます。

英文を作成する際には、グループ内で各自が作成した英文について検討し、和英辞書や参考書を活用して表現や文法事項を確認するなど、表現を練り上げていく姿が見られました。

(2) 電子機械科 3年「課題研究」

「課題研究」で取り組むテーマの一つは、下級生が行う「安全教育」で活用できる作品の制作です。「制作のイメージをつくる」「イメージを図面に起こす」など多くの工程を通り、作品を制作していきます。それらの工程で評価する項目を、教員は単元の最初の段階でI L U評価表で生徒に示し、課題研究を通して、育成する資質・能力を生徒と共有しています。教員が生徒の実習での様子を観察することで、毎時間「教えられたらできる」→「1人でできる」→「他者に教えることができる」の段階で評価を行います。評価項目・評価結果は、作業中、生徒が確認できるように掲示しているため、生徒は作業の中で疑問点が起こった際には、その疑問点を解決できる段階に達している友人に質問し、疑問点を解決するという協働する場面が見られました。



【授業風景
「コミュニケーション英語Ⅱ」】



【授業風景「課題研究」】

4 授業改善の成果

アクティブ・ラーニング型の授業が多く展開されるようになり、学力の向上が見られます。特に、パフォーマンステストを行っている英語科に関して、積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒の姿や、ホームルーム活動や他教科の授業、面接指導においても、自分自身の意見に根拠を持って発言する姿が多く見られるようになりました。また、グループでの学習を通して、他者との意見を交流し、自己の考えを深められています。

5 今後の課題

現在、アクティブ・ラーニングの推進に向けて、若手教員が牽引役として活躍しています。校内全体の取組へとさらに推進していくために、計画的に校内研修会を位置づけ、授業技術や評価方法などの個々の教員のノウハウを校内で共有し、「将来工業技術者として社会に貢献する熱い志と資質」の育成に向け、教育活動に生かしていくことが必要と考えます。